

中長期投資で魅力が際立つ米国ハイ・イールド債券

フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（毎月決算型）B（為替ヘッジなし）、
（資産成長型）D（為替ヘッジなし）

フィデリティ投信株式会社



当資料の ポイント

- Point 1** 過去4年間の累積リターンで米国債を大きく上回る
米国ハイ・イールド債券
- Point 2** 米国3資産ポートフォリオは
全世界株式インデックスよりも優位な長期リターンに
- Point 3** 長期の積立投資で金利収入が積み上がり、
良好な投資成果に

Page 1

Page 2

Page 3

当ファンド特設サイトを是非ご覧ください！



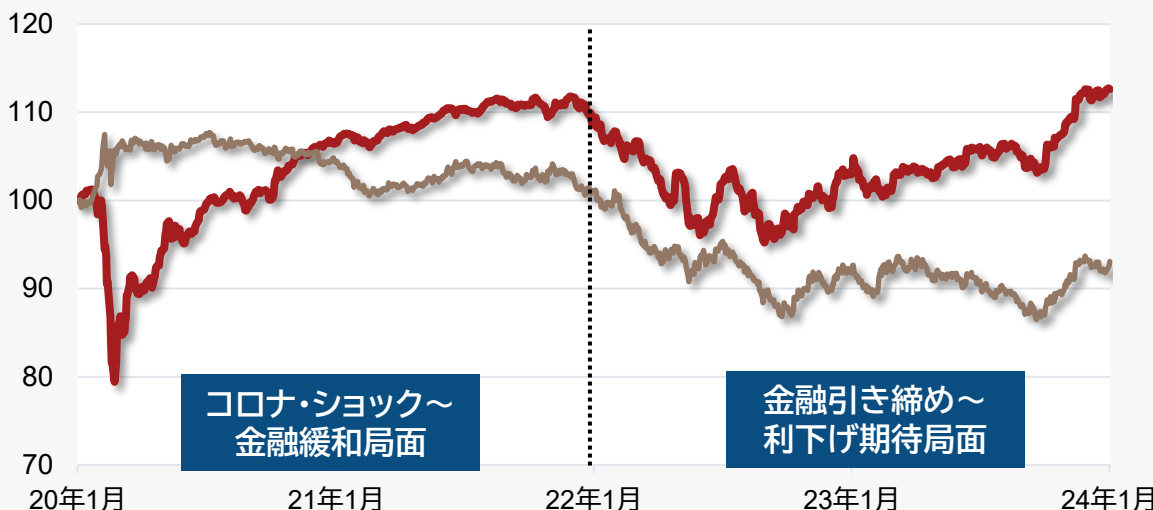
こちらから弊社HP内の特設サイトへアクセスしていただけます。



過去4年間の累積リターンで米国債を大きく上回る米国ハイ・イールド債券

過去4年間で市場のテーマが移り変わるなか、コロナ・ショック前の水準を約13%上回るまで回復

リターン推移(20年1月末～24年1月末)



4年間の累積リターン
(24年1月末まで)

米国ハイ・イールド債券
+12.6%

(2023年通年 +13.5%)

米国債
-6.9%

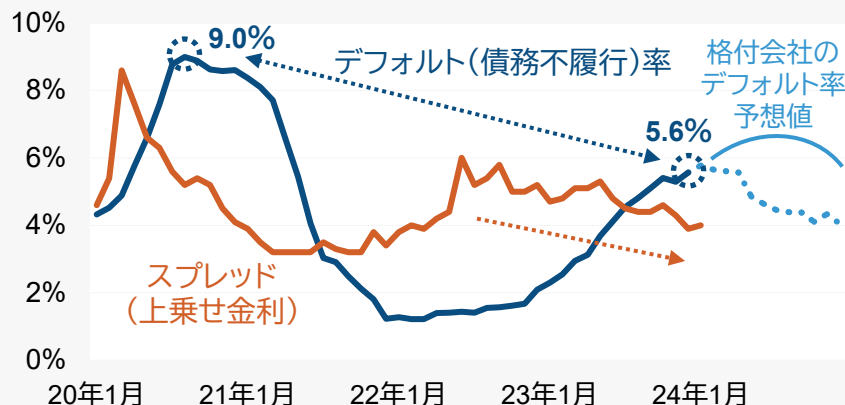
(2023年通年 +3.9%)

(注) LSEGよりフィデリティ投信作成。期間は2020年1月末～2024年1月末。期初を100として指数化。トータル・リターン、米ドルベース。使用指数は最終ページに掲載(以降のグラフで使用している指数も同様に掲載)。

- 過去4年間の累積リターンは、**米国ハイ・イールド債券が米国債を約20%上回りました**。コロナ・ショック～大規模な金融緩和がみられた前半の期間と、急速な金融引き締め～利下げ期待が高まった後半の期間の両方で、米国ハイ・イールド債券は相対的に優位なリターンとなり、市場のテーマが移り変わる中でも底堅さが目立っています。

デフォルト率の上昇は限定的で、先行性のあるスプレッドからみても信用不安には陥っていない状況

米国ハイ・イールド債券のデフォルト率とスプレッドの推移



- 金融引き締めの影響を受け、米国ハイ・イールド債券のデフォルト率は上昇傾向です。一方で、**マクロ環境や発行企業のファンダメンタルズの底堅さが、デフォルト増加を抑制する要因**となっています。
- 実際に、コロナ禍における急上昇(9%まで)に比べると、**足元(23年12月=5.6%)はまだ限定的な上昇にとどまっています**。
- **デフォルト率に先行する傾向のあるスプレッドは縮小が続いていること**や格付会社の予想値からも、**足元は深刻な信用不安には陥っていないことが分かります**。

(注) RIMES、Moody'sよりフィデリティ投信作成。米ドルベース。期間は2020年1月末～2024年1月末。デフォルト率のみ2024年12月まで、2024年1月以降はMoody'sの予想値(Baseline Forecastを使用)。スプレッドは米国10年国債との利回り差。デフォルト率は過去12カ月、発行体ベース。

(注) 当資料作成時点の見方です。今後予告なく変更されることがあります。

中長期投資で魅力が際立つ米国ハイ・イールド債券

フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（毎月決算型）B（為替ヘッジなし）、
（資産成長型）D（為替ヘッジなし）

米国3資産ポートフォリオは全世界株式インデックスよりも優位な長期リターンに

世界経済をリードする米国の3資産への分散投資で、全世界株式よりも優位なリターンに

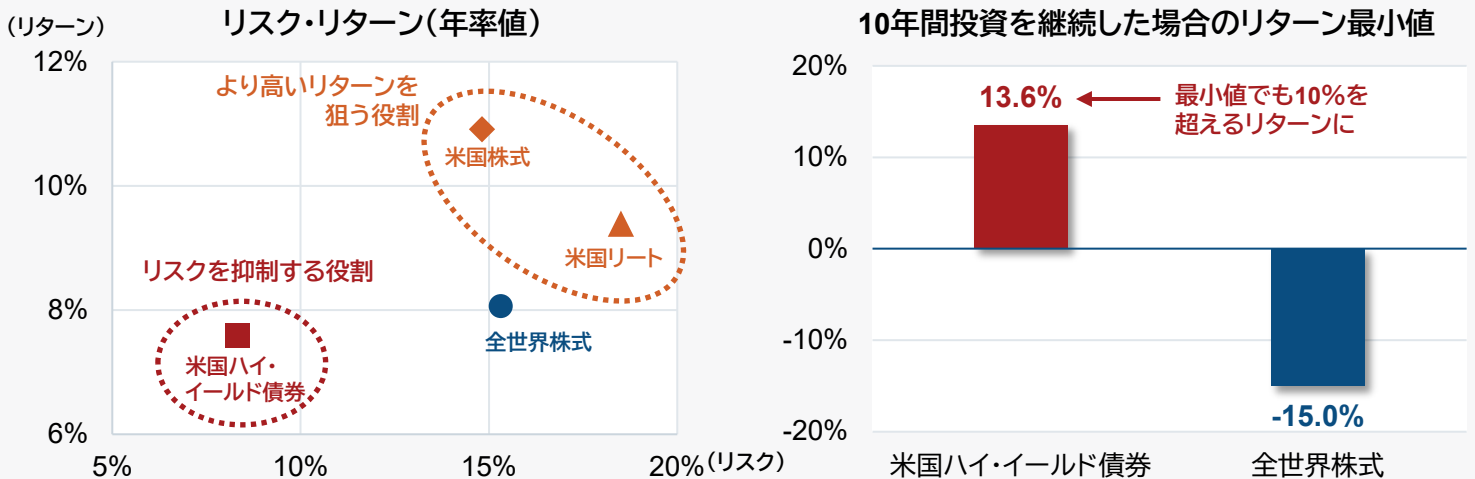
米国3資産均等ポートフォリオと全世界株式のリターン推移



(注)LSEGよりフィデリティ投信作成。期間は1988年8月末～2024年1月末。トータル・リターン、米ドルベース。米国3資産は各資産を月次リバランスで均等配分を行ったと仮定。

- 世界経済をけん引する米国資産への投資は高いリターンを生み出してきました。**米国3資産の年率リターンは全世界株式を約1.5%上回りましたが、その累積効果は投資期間が長くなるほど大きくなります。**
- リターン要因の異なる3つの米国資産（**金利収入中心のハイ・イールド債券、価格上昇中心の株式、価格と配当のバランスがとれたリート**）を長期で保有することで、全世界株式のみの保有に比べ良好な投資成果が期待されます。

米国ハイ・イールド債券は株式と比べリスクが小さく、長期投資でプラスリターンが期待しやすい資産



(注)LSEGよりフィデリティ投信作成。期間は1988年8月末～2024年1月末。トータル・リターン、米ドルベース。右は月次ローリング(10年)。

- 米国ハイ・イールド債券は**全世界株式に比べ年率リスクが約7%も低く、ほぼ同等のリターンが期待**できます。また、より高いリターンが期待できる米国株式や米国リートと併せ持ちすることで、リスク・リターンのバランスに優れたポートフォリオにつながるとみられます。
- 10年間投資を継続した場合のリターン最小値は全世界株式が15%のマイナスであるのに対し、米国ハイ・イールド債券は約14%のプラスで、**タイミングを選ばずに投資しやすく、且つ長期保有に適した資産**と考えられます。

(注)当資料作成時点の見方です。今後予告なく変更されることがあります。

中長期投資で魅力が際立つ米国ハイ・イールド債券

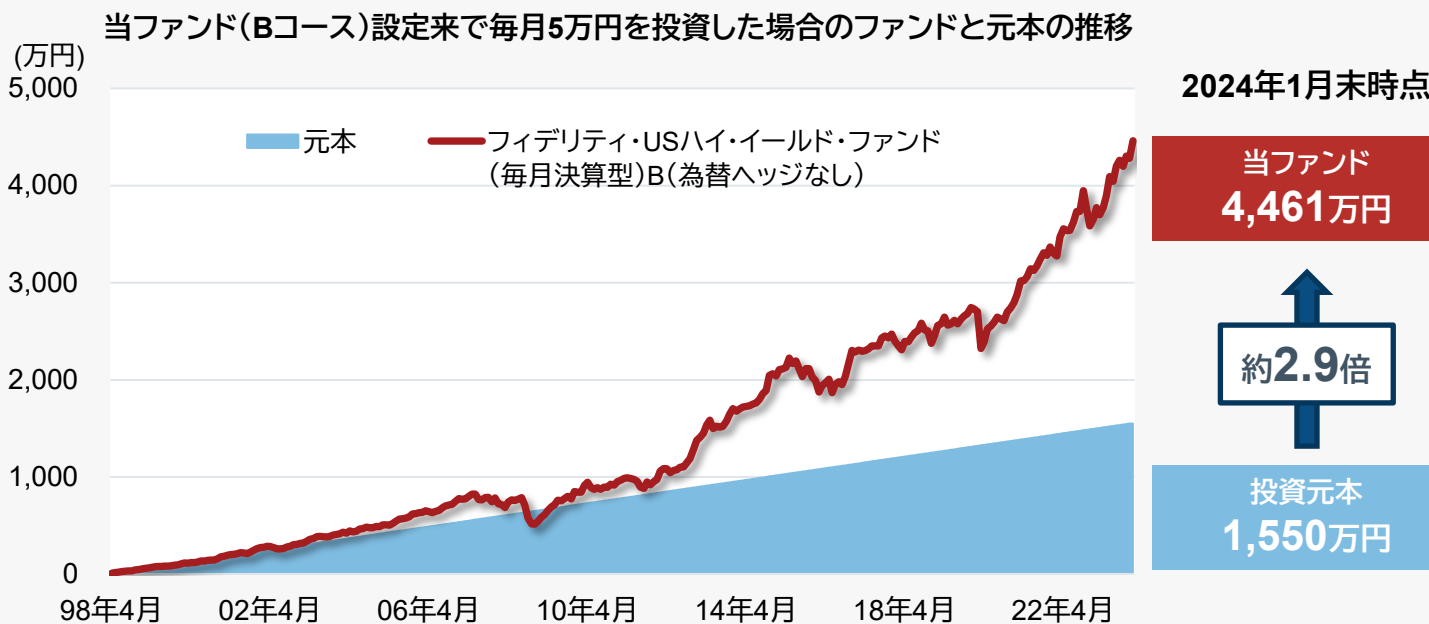
フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（毎月決算型）B（為替ヘッジなし）、
（資産成長型）D（為替ヘッジなし）

フィデリティ投信株式会社



長期の積立投資で金利収入が積み上がり、良好な投資成果に

ファンド設定来の積立投資で、投資元本の約3倍の投資成果に



(注)フィデリティ投信作成。期間は当ファンド設定日(1998年4月1日)~2024年1月末。収益分配金を再投資した実績評価額(累積投資額)を使用。運用管理費用(信託報酬)控除後、ただし購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮せず。期間初から積み立てを開始、その後毎月末に積立を行うと仮定し、最終月末(2024年1月末)には積立を行わない。千円以下は四捨五入した金額を表示。

- 当ファンドに設定来で毎月5万円の積立投資を行った場合、**約26年で最終金額は4,000万円を上回り、元本の約2.9倍の投資成果**となりました。
- 積立額が大きく、長期になるほど、金利収入の積み上がりを享受でき、将来への大きな備えにつながります。

金額別、期間別の当ファンドによる積立投資の運用成果の試算(カッコ内は元本総額)

| 毎月の積立額 | 5年間 (2019年1月末~) | 10年間 (2014年1月末~) | 20年間 (2004年1月末~) | 設定来 (1998年4月1日~) |
|--------|-------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1万円 | 83万円 (元本60万円) | 190万円 (元本120万円) | 580万円 (元本240万円) | 892万円 (元本310万円) |
| 5万円 | 414万円 (元本300万円) | 949万円 (元本600万円) | 2,900万円 (元本1,200万円) | 4,461万円 (元本1,550万円) |
| 10万円 | 828万円 (元本600万円) | 1,899万円 (元本1,200万円) | 5,800万円 (元本2,400万円) | 8,922万円 (元本3,100万円) |
| 50万円 | 4,138万円 (元本3,000万円) | 9,493万円 (元本6,000万円) | 2億9,002万円 (元本1億2,000万円) | 4億4,612万円 (元本1億5,500万円) |

(注)フィデリティ投信作成。使用データや積立の前提は上記と同じ。

(注)当資料作成時点の見方です。今後予告なく変更されることがあります。

上記は過去の実績であり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。6ページ目以降を必ずご確認ください。

中長期投資で魅力が際立つ米国ハイ・イールド債券

フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（毎月決算型）B（為替ヘッジなし）、
（資産成長型）D（為替ヘッジなし）

フィデリティ投信株式会社



運用チームの見通しと注目銘柄



ポートフォリオ・マネージャー
ハーリー・ランク

現在の市場見通し

- レバレッジや金利カバレッジといった企業ファンダメンタルズは、非常に良好だった水準からは悪化したものの、引き続き健全な状況です。一方、**今後2～3年で償還を迎える債券の割合は大きく、当面は“満期の壁”が懸念される状況**です。
- 今後中央銀行の利下げが見込まれますが、過去に比べて高い金利が続くとみられ、**高金利での借り換えに対する耐性の違いで、企業間の格差が拡大する可能性**があります。
- ファンドにおいては、昨年の10～12月期において長期金利が上昇したタイミングで、ハイ・イールド債券の中で**相対的に高い格付の銘柄を増やしており、BB格で9%前後の利率の新発債を組み入れました。**

新規発行の機会を活かしたBB格銘柄①

スミルナ・レディ・ミックス・コンクリート(素材企業)



クーポン: **8.875%**
最終利回り*: **8.85%**
格付: **BB-**
償還日: **2031年11月15日**

- コンクリートの生産、輸送事業を米国の19の州で展開し、8000人以上の従業員を持つ。デザイン性と質の高さを両立した製品や、テクノロジーを駆使した効率的な輸送サービスに強み。
- 素材企業は景気動向に左右されやすいものの、運用チームは**経営陣の財務運営に対する規律の高さ**を評価。

新規発行の機会を活かしたBB格銘柄②

レイジング・ケインズ(レストラン運営企業)

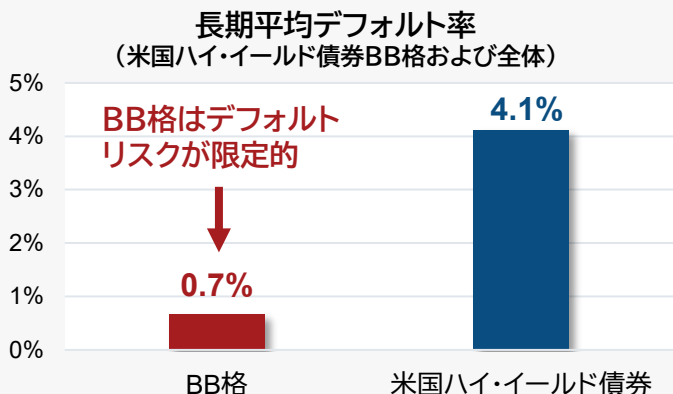


クーポン: **9.375%**
最終利回り*: **8.96%**
格付: **BB-**
償還日: **2029年5月1日**

- チキンフィンガー(骨なしのフライドチキン)に特化したレストランを展開。米国で幅広く人気を獲得し、急速な成長を遂げている。2023年11月に同社初の債券を発行。
- **独自の商品の競争力、事業の成長性や保有資産の質の高さから投資妙味が高いと判断。**

(注)LSEGよりフィデリティ投信作成。写真はイメージ図。格付はS&P長期発行体格付で2024年2月9日時点。
*最終利回りは各銘柄の発行日時点(①2023年11月20日、②2023年11月8日)。

(ご参考)デフォルトリスクが限定的なBB格銘柄の利回りは、過去との比較で相対的に高い水準



(注)BofA、RIMESよりフィデリティ投信作成。左:2005年9月～2024年1月の平均値。過去12カ月、発行体ベース。右:期間は2014年1月末～2024年1月末。

(注)当資料作成時点の見方です。今後予告なく変更されることがあります。掲載されている個別の銘柄・企業名については、あくまで参考として述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。また、当ファンドへの組み入れを保証するものではありません。

中長期投資で魅力が際立つ米国ハイ・イールド債券

フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（毎月決算型）B（為替ヘッジなし）、
（資産成長型）D（為替ヘッジなし）

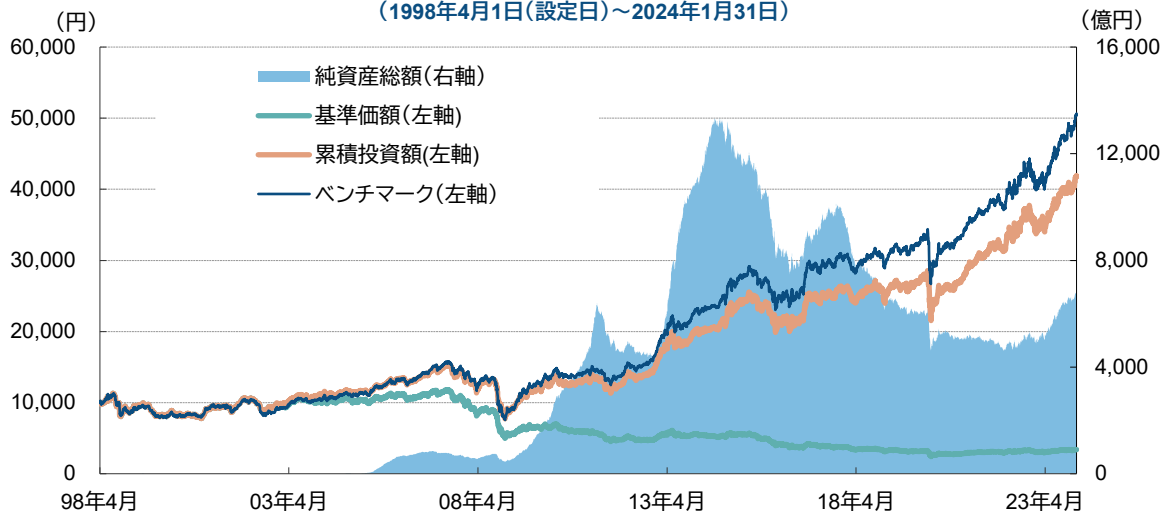
フィデリティ投信株式会社



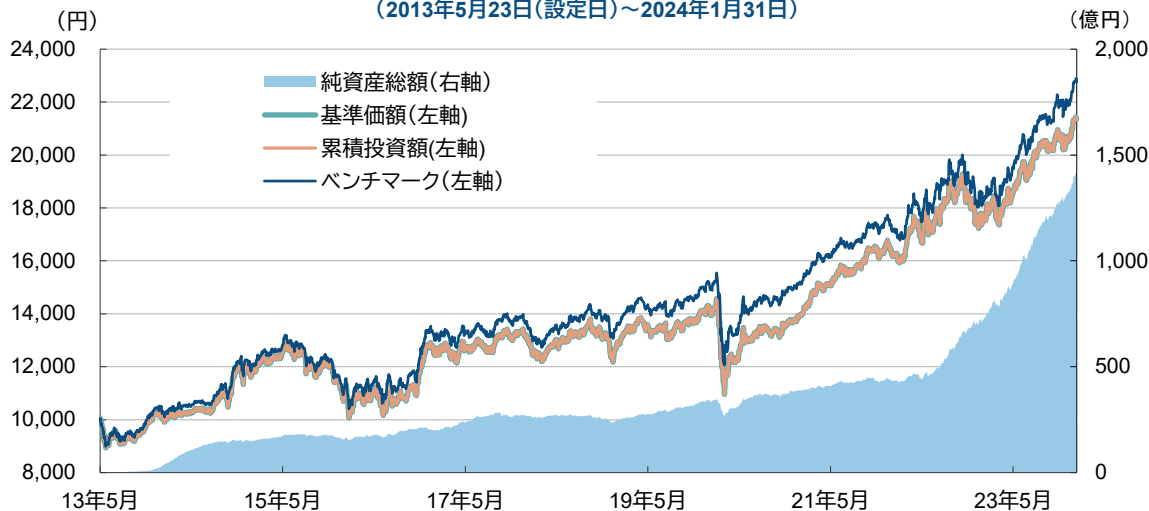
「フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド」の運用実績

- 「フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（毎月決算型）B（為替ヘッジなし）」は1998年4月1日に運用を開始し長期の運用実績を持っています。
- 2013年5月23日には、毎月分配を行わない「（資産成長型）D（為替ヘッジなし）」の運用を開始しました。

フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（毎月決算型）B（為替ヘッジなし）
（1998年4月1日（設定日）～2024年1月31日）



フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（資産成長型）D（為替ヘッジなし）
（2013年5月23日（設定日）～2024年1月31日）



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※ベンチマークはICE BofA USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス（円換算）。※基準価額は運用管理費用（信託報酬）控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。



**REFINITIV LIPPER
FUND AWARDS**

2023 WINNER
JAPAN

『フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（毎月決算型）B（為替ヘッジなし）』は、リフィニティブ・リップパー・ファンド・アワード・ジャパン 2023（分類：債券型 米ドルハイイールド）評価期間10年において「最優秀ファンド」に選出されました。

リフィニティブ・リップパー・ファンド・アワードは毎年、多くのファンドのリスク調整後リターンを比較し、評価期間中のパフォーマンスが一貫して優れているファンドと運用会社を表彰いたします。

選定に際しては、「Lipper Leader Rating（リップパー・リーダー・レーティング）システム」の中の「コンシスタント・リターン（収益一貫性）」を用い、評価期間3年、5年、10年でリスク調整後のパフォーマンスを測定いたします。評価対象となる分類ごとに、コンシスタント・リターンが最も高いファンドにリフィニティブ・リップパー・ファンド・アワードが贈られます。詳しい情報は、lipperfundawards.com をご覧ください。Refinitiv Lipper は、本資料に含まれるデータの正確性・信頼性を確保するよう合理的な努力をしていますが、それらの正確性については保証しません。

投資方針

- 1 米ドル建て高利回り事業債（ハイ・イールド債券）を中心に分散投資を行ない、高水準の利息等の収入を確保するとともに、値上り益の追求を目指します。
- 2 格付けに関しては、主に、Baa格（ムーディーズ社）以下またはBB格（S&P社）以下の格付けの事業債に投資を行ない、一部、格付けを持たない債券や、米国以外の国の発行体の高利回り事業債を組入れることもあります。
- 3 銘柄選択に関しては、個別企業分析により判断します。
- 4 個別企業分析にあたっては、アナリストによる独自の企業調査情報を活用し、個別の企業の信用分析と現地のポートフォリオ・マネージャーによる「ボトム・アップ・アプローチ」を重視した運用を行ないます。
- 5 高利回り事業債の組入率は原則として高位を維持します。
- 6 原則として外貨建資産の為替ヘッジは行ないません。
- 7 マザーファンドの運用にあたっては、FIAM LLCに、運用の指図に関する権限を委託します。

※「フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（毎月決算型）B（為替ヘッジなし）」「フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド（資産成長型）D（為替ヘッジなし）」は主としてマザーファンドに投資を行ないます。上記の投資方針はファンドの主要な投資対象である「フィデリティ・USハイ・イールド・マザーファンド」の投資方針を含みます。
※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合もあります。

ファンドの主なリスク内容について

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。

ファンドが有する主なリスク等（ファンドが主に投資を行なうマザーファンドが有するリスク等を含みます。）は以下の通りです。

主な変動要因

価格変動リスク

基準価額は有価証券等の市場価格の動きを反映して変動します。有価証券等の発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなる場合があります。

信用リスク

有価証券等への投資にあたっては、発行体において利払いや償還金の支払いが遅延したり、債務が履行されない場合があります。なお、ハイ・イールド債およびエマーシング・マーケット債に投資を行なう場合には、上位に格付けされた債券に比べて前述のリスクが高くなります。

金利変動リスク

公社債等は、金利の変動を受けて価格が変動します。一般に金利が上昇した場合には債券価格は下落し、金利が低下した場合には債券価格は上昇します。

為替変動リスク

外貨建の有価証券等に投資を行なう場合は、その有価証券等の表示通貨と日本円との間の為替変動の影響を受けます。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

クーリング・オフ

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

流動性リスク

ファンドは、大量の解約が発生し短期間に解約資金を手当てする必要が生じた場合や、主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスクや、取引量が限られるリスク等があります。その結果、基準価額の下落要因となる場合や、購入・換金受付の中止、換金代金支払の遅延等が発生する可能性があります。

エマーシング市場に関わる留意点

エマーシング市場（新興諸国市場）への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券の価格変動が大きくなる場合があります。

ベンチマークに関する留意点

ファンドのパフォーマンスは、ベンチマークを上回る場合もあれば下回る場合もあり、ベンチマークとの連動を目指すものではありません。また、投資対象国または地域の市場の構造変化等によっては、ファンドのベンチマークを見直す場合があります。

収益分配金に関する留意事項

- 1 ファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、それぞれの投資者ご自身の個別元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 2 分配金は預貯金の利息とは異なり、分配金支払い後の純資産は減少し、基準価額の下落要因となります。
- 3 分配金は計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があります、その場合当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落します。

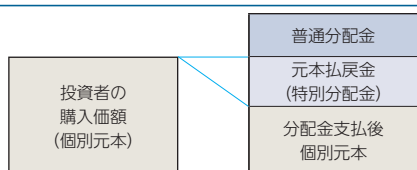
分配方針や頻度の異なるコースが存在する場合は、投資者は自身の選好に応じて投資するコースを選択することができます。販売会社によってはコース間でスイッチングが可能です。

- 1 投資者のファンドの購入価額によっては分配金はその支払いの一部、または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

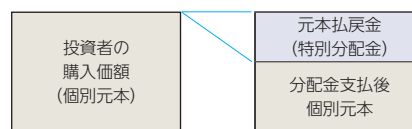
ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

ファンドの購入価額は、個々の投資者によって異なりますので、投資期間全体での損益は、個々の投資者によって異なります。

分配金の一部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合



- 「個別元本」とは、追加型投資信託の収益分配金や解約（償還）時の収益に対する課税計算をする際に用いる個々の投資者のファンドの購入価額のことを指します。
 - 「普通分配金」とは、個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。
 - 「元本払戻金（特別分配金）」とは、個別元本を下回る部分からの分配金です。実質的に元本の払戻しに相当するため、非課税扱いとなります。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。
- ※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）をご参照ください。

- 2 分配金は、預貯金の利息とは異なります。分配金の支払いは純資産から行なわれますので、分配金支払い後の純資産は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。

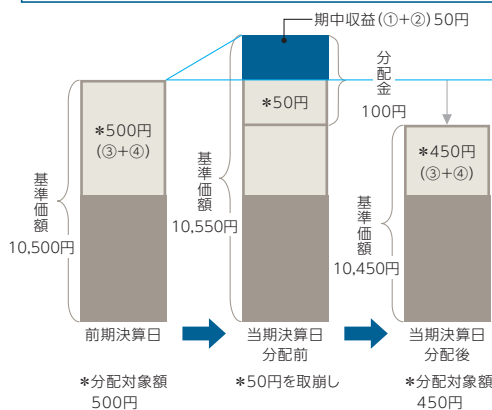
投資信託で
分配金が支払われる
イメージ



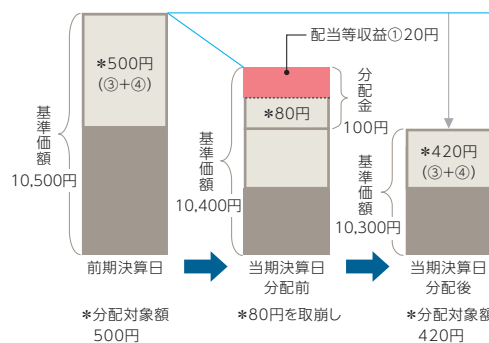
- 3 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。計算期間におけるファンドの運用実績は、期中の分配金支払い前の基準価額の推移および収益率によってご判断ください。

投資信託は、当期の収益の他に、ファンドの設定から当期以前の期間に発生して分配されなかった過去の収益の繰越分等からも分配することができます。

前期決算から基準価額が上昇
当期計算期間の収益がプラスの場合



前期決算から基準価額が下落
当期計算期間の収益がマイナスの場合



※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド

(毎月決算型)B(為替ヘッジなし) / (資産成長型)D(為替ヘッジなし)

追加型投信 / 海外 / 債券

ファンドに係る費用・税金

| ファンド名 | フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド (毎月決算型)B(為替ヘッジなし) | フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド (資産成長型)D(為替ヘッジなし) |
|------------------|---|--|
| 購入時手数料 | お申込み金額に応じた下記の手数料率 1,000万円未満……………3.30%(税抜3.00%) 1,000万円以上5,000万円未満……………2.20%(税抜2.00%) 5,000万円以上1億円未満……………1.65%(税抜1.50%) 1億円以上……………1.10%(税抜1.00%) | |
| 換金時手数料 | なし | |
| 運用管理費用 (信託報酬) | 純資産総額に対し年率1.738%(税抜1.58%) | 純資産総額に対し年率1.65%(税抜1.50%) |
| その他費用・手数料 | ・ 組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用等がファンドより支払われます。(運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示できません。) ・ 法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等がファンドより差し引かれます。(ファンドの純資産総額に対して年率0.10%(税込)を上限とします。) | |
| 税金 | 原則として、収益分配時の普通分配金ならびにご換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。税法が改正された場合等には、上記内容が変更になる場合があります。 | |
| 信託財産留保額 | なし | |

- ※当該手数料・費用等の上限額および合計額については、お申込み金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
- ※課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド(資産成長型)D(為替ヘッジなし)は、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理助定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド(毎月決算型)B(為替ヘッジなし)は、NISAの対象ではありません。
- ※ファンドに係る費用・税金の詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

その他のファンド概要

| | |
|---------|---|
| 設定日 | フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド(毎月決算型)B(為替ヘッジなし):1998年4月1日 フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド(資産成長型)D(為替ヘッジなし):2013年5月23日 |
| 信託期間 | 原則として無期限 |
| ベンチマーク | ICE BofA USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス(円換算) |
| 収益分配 | フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド(毎月決算型)B(為替ヘッジなし):原則、毎月22日、フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド(資産成長型)D(為替ヘッジなし):原則、毎年5月22日(ただし休業日の場合は翌日以降の最初の営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づき分配を行ないます。ただし、必ず分配を行なうものではありません。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 |
| 購入価額 | 購入申込受付日の翌営業日の基準価額 |
| 換金価額 | 換金申込受付日の翌営業日の基準価額 |
| 換金制限 | ご換金代金の支払開始日は原則として換金申込受付日より5営業日目以降になります。 |
| スイッチング | ファンドの資金管理を円滑に行なうため、1日1件5億円を超えるご換金はできません。また、大口のご換金には別途制限を設ける場合があります。 |
| スウィッチング | 各コース間および「フィデリティ・日本小型株・ファンド」「フィデリティ・日本成長株・ファンド」「フィデリティ・欧州株・ファンド」「フィデリティ・グローバル・ファンド」「フィデリティ・米国優良株・ファンド」「フィデリティ・バランス・ファンド」の各ファンド間でスウィッチングが可能です。各ファンドの商品性については、当該投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。 |
| 申込受付時間 | ご購入およびご換金の受付については、原則として、毎営業日(ただし、ニューヨーク証券取引所の休業日と同日の場合は除きます。)の午後3時まで受け付けます。 |

委託会社、その他の関係法人

| | |
|--------|--|
| 委託会社 | フィデリティ投信株式会社 【金融商品取引業者】関東財務局長(金商)第388号 【加入協会】一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 |
| 受託会社 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 運用の委託先 | FIAM LLC(所在地:米国) |
| 販売会社 | 株式会社三井住友銀行 |

- 当資料はフィデリティ投信によって作成された最終投資家向けの投資信託商品販売用資料です。投資信託のお申込みに関しては、以下の点をご理解いただき、投資の判断はおお客様ご自身の責任においてなされますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。
- 投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。また、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入していません。
- 「フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド(毎月決算型)B(為替ヘッジなし)」[「フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド(資産成長型)D(為替ヘッジなし)」]が投資を行なうマザーファンドは、主として米ドル建て高利回り事業債(ハイ・イールド債券)を投資対象としていますが、株式を含むその他の有価証券に投資することもあります。
- ファンドの基準価額は、組み入れた債券および株式やその他の有価証券の値動き、為替相場の変動等の影響により上下しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、組み入れた債券および株式やその他の有価証券の発行者の経営・財務状況の変化および

- それらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。特にハイ・イールド債券については上位に格付けされた債券に比べて、利払い・元本返済の不履行または遅延等のいわゆるデフォルト・リスクが高い傾向にあります。すなわち、保有期間中もしくは売却時の投資信託の価額はご購入時の価額を下回ることもあり、これに伴うリスクはおお客様ご自身のご負担となります。
- ご購入の際は投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ずお受取りのうえ内容をよくお読みください。
- 投資信託説明書(交付目論見書)については、販売会社またはフィデリティ投信までお問い合わせください。なお、当ファンドの販売会社につきましては以下のホームページ(<https://www.fidelity.co.jp/>)をご参照ください。
- 当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。
- 当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りいたします。

【投資信託に関する留意点】

- 投資信託をご購入の際は、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体となっている「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。これらは三井住友銀行本店等にご用意しています。
- 投資信託のご購入、換金にあたっては各種手数料等(購入時手数料、換金時手数料、信託財産留保額等)が必要です。また、これらの手数料等とは別に信託報酬と監査報酬、有価証券売買手数料等その他費用等を毎年、信託財産を通じてご負担いただきます。お客さまにご負担いただく手数料はこれらを足し合わせた金額となります。
- これらの手数料等は各投資信託およびその通貨・購入金額等により異なるため、具体的な金額・計算方法を記載することができません。各投資信託の手数料等の詳細は、目論見書・販売用資料等でご確認ください。
- 投資信託は、元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- 投資信託は国内外の株式や債券等へ投資しているため、投資対象の価格の変動、外国為替相場の変動等により投資した資産の価値が投資元本を割り込むリスクやその他のリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うこととなります。
- 投資信託は預金ではありません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。預金保険については窓口までお問い合わせください。
- 三井住友銀行で取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 三井住友銀行は販売会社であり、投資信託の設定・運用は運用会社が行います。

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込



株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号
加入協会 / 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用

フィデリティ投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第388号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

資料中グラフの注記に別途記載ない場合は以下の指数を使用しています。
米国ハイ・イールド債券はICE BofA USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス。
米国ハイ・イールド債券BB格指数はICE BofA BB USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス。
米国債はICE BofA USTレジャリー・インデックス。
米国10年国債はICE BofA USTレジャリー(10年)・インデックス。
米国株式はS&P500種指数。
米国リートはFTSE NAREIT Equity REITsインデックス。
全世界株式はMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス。



LINEでマーケット情報が届きます。友だち追加はこちらから。